

事前評価個表

整理番号	17
------	----

地域（地区）名	ひのがわ 日野川	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	鳥取県	対象市町村	米子市ほか 8 市町村
事業実施期間	R2 年度 ～ R6 年度（5 年間）	事業実施主体	県、市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>本地区は鳥取県西部に位置し、東側から南側にかけて中国山地最高峰の大山をはじめ、標高が 1,000m を超える中国山地が連なり、この山地を水源とする日野川が中央部を北上し日本海に注いでいる。総土地面積 121 千 ha のうち森林面積は 85 千 ha（森林率 70%）であり、このうち民有林面積は 79 千 ha と、本地区の森林の 93% を占めている。また、民有林の人工林率は 57% であり、県平均 55% と比較してその割合は高い。</p> <p>本地区では日南町に LVL（単板積層材）工場、南部町に CLT（直行集成板）工場、境港市に合板工場を有しており、県内有数の原木消費地となっている。また、レーザ航測データやドローン等を活用した「スマート林業」の推進により森林経営の効率化を図るなど、先進的な取組も進んでいる。</p> <p>本地区の南部に位置する日野地方は古来、たたら用黒炭の原木林であったが、戦後の拡大造林による林業振興地域であり、北部の大山地域はアカマツの適地で古くからマツ材の生産地となっている。人工林の齢級配置は、Ⅶ齢級以下の森林が 14% と県平均 12% と比較して高く、今後は間伐を主とした適切な森林整備の実施が必要となっている。また、持続的な林業経営を行うためには、高齢級の人工林を皆伐し再造林を行うことで森林の若返りを図り、適切な保育の実施に繋げていくことも課題となっている。</p> <p>このため、日野川森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づき、間伐等の森林整備及び林道等の基盤整備を実施し、良質の木材生産と同時に水源涵養機能や土砂流出防止機能等の森林の有する多面的機能の持続的発揮を目指すとともに、他事業と連携した間伐材の利用を推進し、地域資源の有効活用と地域の振興を図る。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：4,733ha 人工造林、下刈り、雪起こし、枝打ち、除伐、間伐等</p> <p>路網整備：3,170m 林道開設</p> <p>総事業費：3,689,080 千円（税抜き 3,353,709 千円）</p>
費用便益分析結果	<p>B/C=4.76 （総便益（B）=23,201,383 千円、費用（C）=4,876,496 千円）</p>
評価結果	<p>必要性：「スマート林業」の推進により効率的な森林経営に取り組む地域であり、持続的な林業経営を行うため、間伐を主とした適切な森林整備の実施が求められており、事業の必要性が認められる。</p> <p>効率性：費用便益分析の結果から十分な効率性が認められるとともに、本事業を活用した計画的な森林整備及び路網整備により、施業地の集約化や生産コストの縮減が図られることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：間伐や主伐・再造林等の適切な森林整備により、健全な森林づくりによる水源涵養、国土保全等の森林の公益的機能の維持増進はもとより、将来の優良材の安定的生産を図る事業であり、事業の有効性が認められる。</p>

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：鳥取県

地域(地区)名：日野川^{ひのがわ}

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	7,045,360	
	流域貯水便益	1,792,100	
	水質浄化便益	6,221,051	
山地保全便益	土砂流出防止便益	4,078,073	
環境保全便益	炭素固定便益	1,728,186	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	67,404	
	木材利用増進便益	401,883	
	木材生産確保・増進便益	1,142,667	
森林整備経費縮減等便益	造林作業経費縮減便益	447	
	森林管理等経費縮減便益	726	
	森林整備促進便益	723,486	
総 便 益 (B)		23,201,383	
総 費 用 (C)		4,876,496	
費用便益比	$B \div C = \frac{23,201,383}{4,876,496} = 4.76$		

